

平成 16 年度 教員個人評価（試行）の集計・分析報告書

海浜台地生物環境研究センター

1. 個人評価の実施状況

1)対象教員数，実施者数，実施率

対象教員数（人）	実施者数（人）	実施率（％）
4 （教授 2、助教授 2）	4	100

2)教員個人評価（試行）の実施概要

評価組織	低平地研究センター 個人評価専門委員会
構成	谷本静史（農学部教授 / センター長） 有馬 進（農学部教授 / 副センター長） 鄭 紹輝（センター助教授 / 副センター長）

実施内容と方法：

海浜台地生物環境研究センター個人評価実施基準、同指針に基づき、評価項目とそれらの重みを各自が設定。

実施対象期間を平成 16 年度の 1 年間とし、活動実績の様式に活動実績を記入し、それに基づき自己点検・評価を行い提出。

評価専門委員会を平成 18 年 8 月 21 日に開催し（出席者：谷本、有馬、鄭）提出された評価資料をすべて点検・評価し、委員会の評価点、コメントを集約。

添付資料：

海浜台地生物環境研究センター個人評価実施基準

海浜台地生物環境研究センター個人評価実施指針

個人目標申告書（様式 1） 活動実績報告書（様式 2） 自己点検・評価書（様式 3、

様式3の別表)・評価結果(様式4)の各フォーマット

2. 評価領域別の集計・分析と自己点検評価

(1) 研究の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析

論文数

	年間一人当たり平均	最少	最多
学術論文	4.3	3.0	6.0
審査付き学術論文	1.8	0	3.0
講演発表論文(学術)	2.0	0	4.0

・教員によって論文数には若干の幅があったが、平成16年度中途採用の教員が1名いるためである。

学内外共同研究、国際共同研究

・全員がいずれかまたは両方を目標項目に設定し、かつ100%達成している。

競争的資金

・全員が研究代表者として毎年数件を獲得している。

センター業務と連携した研究

・全員が業務と密接に連携した研究を行っている。

2) 研究の領域における教員の活動評価集計と分析

・自己評価(達成率)は平均85%であった。各評価項目とも概ね目標を達成している。

・審査付き論文の投稿数に関して努力の余地がある教員がみられた。

3) 研究の領域における部局等の自己点検評価

・少人数でありながら十分な業績を達成している。

・他の評価領域(特に、社会貢献)の過剰な負担のため論文作成・投稿に支障が出ている場合があり、センターとしての業務分担や人的資源の獲得などを模索する必要性が認められた。

(2) 教育の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析

教養教育/学部教育科目担当

・平成16年度中途採用の教員以外は全員が教養教育一科目と農学部の講義を一科目または複数科目担当している。

大学院授業担当

- ・全員が2科目以上を担当している。

大学院指導学生数

有資格者1人当たり年平均で博士学生0.5名、修士学生2.0名を指導している。

学生生活指導，FD活動，教育改善の取り組み

- ・いずれの項目に関しても全員が個々人の工夫で取り組み、平均的な成果を上げている。一般的にはFD講演会などへの参加に余地があるとも言える。

2)教育の領域における教員の活動評価集計と分析

- ・自己評価(達成率)は平均76%であった。平成16年度中途採用の教員が1名いるために平均が減少した。
- ・教養教育、学部教育、大学院教育の各評価項目ともに積極的に取り組み、十分に目標を達成している。

3)教育の領域における部局等の自己点検評価

- ・本センターは研究センターであるので学部教育の負担義務は基本的にはないが、実際にはそれも含めて本学の教育に十分に貢献している。

(3)社会貢献の領域

1)評価項目ごとの実績集計と分析

学会の役員、審議会などの委員

- ・全員が、県、地方自治体、関連学会などの委員長、委員、幹事など複数に就任している。
- 国内研究集会の開催に貢献する
- ・全員がセンター主催の市民フォーラム、地方自治体の成果発表会などの企画、運営、講演などに貢献している。

学外からの依頼講演など

- ・全員が高校等への出前講義、学協会等からの依頼講演のいずれかを引き受けている。

2)社会貢献の領域における教員の活動評価集計と分析

- ・自己評価(達成率)は平均75%であった。

3)社会貢献の領域における部局等の自己点検評価

・少人数の研究センターで、毎年、複数回の国内研究集会に参加しており、社会貢献領域の活動は申し分ない。

(4) 国際交流の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析

国際会議の開催、参加

・センターでは2年に1回程度、国際シンポジウムを主催しているが、平成16年度については開催しなかった。

・国際会議への投稿・発表・参加も積極的である。

留学生の受け入れ

・留学生に関しては平均受入留学生数は0.25/年・人あった。

2) 国際交流の領域における教員の活動評価集計と分析

・自己評価（達成率）は平均75%であった。

・より努力すべきである。

(5) 組織運営の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析

・センターの運営に関しては、全員が随時開催されるセンター会議に参加し、また、センター内各種業務分担に各教員が責任をもって当たっており、個人ごとの目標達成度は高い。

2) 組織運営の領域における教員の活動評価集計と分析

・自己評価（達成率）は平均55%であった。

・平成16年度中途採用の教員が1名いるために平均が減少した。

3) 組織運営の領域における部局等の自己点検評価

・少人数の組織であり、全員が重要な業務分担をせざるを得ない。平均的にも過重な負担が認められるし、身分以上の責任が負わされる場合もあり、不満が全くない訳ではない。

・上記の点を緩和するために外部資金による事務補佐員の雇用、非常勤研究員の雇用などの自助努力も行っているが、さらに財政的/人的資源の確保が必要であろう。

3. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

1) 総合的な集計・分析結果と部局等の自己点検評価

	平均	最低値	最高値
研究	85	80	90
教育	76	65	80
社会貢献	75	70	80
国際交流	75	70	80
組織運営	55	50	60
平均	73	67	78

- ・各教員の総合的な評価点（達成率）は78%である。
- ・教員に達成率が若干低い者が見られたが、これはセンター業務全体が過重となっているためとも言えるが、個人評価制度の実施を機に各領域のバランスを考慮して今後努力してもらいたい。
- ・平成16年度中途採用の教員が1名いるために平均が減少した。

2) 個人評価に関する構成員からの意見を調査している場合は、まとめたものを添付

- ・重み配分基準を設定しているが、その範囲に入らない場合があることについて意見があったが、当面は個々人ごとに設定変更を行うこととした。

3) 次年度の個人評価実施に向けての改善案が策定されていれば、それも記載

4) 段階評価試行結果の検討（意義，有効性，活用方法などに関して）及びこれに代わる総合的活動状況評価の集計・分析方法の提案など

・センターの自己点検・確認に相当する会議を行っていることから、各活動領域の動きや個人の位置づけなどは日常的に全員が認識・把握している。また、少人数のセンターであるため、大型プロジェクトの申請・実施、シンポジウム開催、出版・発行などセンターが一丸となり当たる必要があり、各活動領域における自己の貢献度や努力の程度はセンター内部で相対的にも常に評価されている。このように、自己点検、個人評価に関する構成員個々人の意識、認識は日常的に高く、そういう意味で多人数の部局とは、個人評価とその結果の意味が異なるし、現時点でのセンターにおいて意義の大きい制度とは必ずしも言えない。

但し、相対的意味を持たない数値であっても「達成度」を具体的数値として自ら評価することが、特に低い達成率と自覚している教員にとって活動を点検し、目標を再設定する良い機会になったと感じられる。

佐賀大学海浜台地生物環境研究センターにおける教員の 個人評価に関する実施基準（試行）

（趣 旨）

第1 この実施基準は、国立大学法人佐賀大学における職員の個人評価に関する実施基準（平成17年9月27日制定。以下「個人評価実施基準」という。）第3に基づき、佐賀大学海浜台地生物環境研究センター（以下「本センター」という。）における教員の個人評価の実施基準に関し、必要な事項を定める。

（評価体制）

第2 本センターの個人評価の実施に係る評価組織は、運営委員会が別に定める海浜台地生物環境研究センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）とする。

2 評価の対象

本センターが行う個人評価の対象とする教員は、本センターに所属する教員（教授、助教授、講師及び助手）とする。

（点検・評価項目及び評価基準等）

第3 点検・評価は、次に示す領域ごとに、個人の活動実績及び改善に向けた取組について行う。

教育、 研究、 国際交流・社会貢献及び 組織運営

2 各領域の点検・評価項目及び評価基準は、第4第2号に定める活動実績報告書によるものとする。

3 各教員は、各教員の個性を生かす評価を行うため、自己の職種、職務、能力、関心等を勘案して各領域における達成目標及び活動ウエイト「重み」配分を予め設定して申告する。

4 達成目標及び重み配分の設定は、別に定める「海浜台地生物環境研究センター教員個人評価実施要項」に基づき行う。

（評価の実施方法）

第4 個人評価の実施は、個人評価実施基準によるもののほか、次の各号により実施する。

（1） 各教員は、 月末までに個人目標申告書（別紙様式1）を作成し、センター長に提出する。

（2） 各教員は、 月末までに前年度の活動実績報告書（別紙様式2）及び自己点検・評価書（別紙様式3）を作成し、センター長に提出する。

（3） 評価委員会は、 月末までに各教員の個人目標申告書（別紙様式1）、活動実績報告書（別紙様式2）及び自己点検・評価書（別紙様式3）に基づいて、本学及び各部局等の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行う。審査に当たり、評価委員会は、審査の公正性を確保するため、必要に応じ、他の職員から意見を求めることができる。

- (4) 領域ごとの段階評価基準及び総合評価基準は、自己点検・評価書に定めるものとし、総合評価に際しては、教員から先に申告された重みを考慮する。
- (5) センター長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した個人評価結果(別紙様式4)を当該教員に封書で通知する。
- (6) 教員は、個人評価の結果に対して不服がある場合は、通知後1週間以内に不服申立書(様式任意)をセンター長に提出することができる。その場合、評価委員会において当該教員からの意見を聴取する機会を設ける。
- (7) 評価委員会は、不服申立書を提出した教員からの意見を聴取の上、必要と認められるときは、再審査・評価を行う。再審査に際し、評価委員会は、先行する審査に際して意見を求めた教員以外に、更に必要と認められる者から意見を求めなければならない。
- (8) 再審査・評価の結果は、センター長から当該教員に通知するものとする。
- (9) センター長は、個人評価結果の集計と総合的分析を行い、 月末までに結果を学長に報告する。

(評価結果の活用)

第5 評価結果の活用については、国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則(平成17年3月1日制定)によるもののほか次の各号によるものとする。

- (1) 教員は、自己の活動状況を点検・評価し、自己の活動改善の資料とする。
- (2) センター長は、教員の活動状況を取りまとめ、評価結果を本センターの活動改善の資料とする。
- (3) センター長は、個人評価の結果を取りまとめ、本センターの教育、研究、国際・社会貢献及び組織運営の改善に役立てる。

(評価結果の公表等)

第6 取りまとめた評価結果は、運営委員会等に報告するとともに公表する。

- 2 個人の評価結果は、本人以外には公表しない。
- 3 センター長、副センター長及び評価委員会委員は、必要に応じ個人評価調査票、自己点検評価報告書を閲覧することができる。

附 則

この実施基準は、平成17年12月12日から施行する。

海浜台地生物環境研究センター教員個人評価実施要項（試行）

1 個人達成目標の設定：「個人目標申告書」

- 1) 各教員は、海浜台地生物環境研究センターの目標並びに自己の職種及び職務の専門性・特殊性等を勘案の上、自主的に、評価領域ごとの以下に示す項目についての達成目標を設定して個人目標を申告することとする。

教育に関する目標

- (1) 主題科目など教養教育科目を担当する。
- (2) 学部教育及び大学院教育において講義・実習等を担当する。
- (3) 所属する部局の枠を超えて、横断的に教育に貢献する。
- (4) 授業の目的、内容を分かりやすく示したシラバスを作成し、学生による活用を高める。
- (5) シラバスに到達目標、評価方法・基準を明記し、厳格な成績評価を行う。
- (6) 学生による授業評価等を参考にして、授業内容、方法の改善を行う。
- (7) 問題発見・解決型授業、学生参加型授業、総合型授業、インターネット利用授業などの学習指導方法や創造的教材などを開発する。
- (8) 卒業研究、セミナーなど個別教育指導の量的・質的改善を行う。
- (9) オフィスアワー等による学生指導・支援を積極的に行う。
- (10) 大学院生の受入れに努めるとともに、個別教育研究指導の実効を高める。
- (11) 教育研修（ファカルティ・デベロプメント）に積極的に参加し、自己の改善に資す。
- (12) TAを活用して学生の技術力・思考能力の向上を図る。
- (13) その他独自の目標

研究に関する目標

- (1) 分野等グループの研究を総括し、研究活動を高める。
- (2) 大学院生等の論文作成指導の量的、質的水準を高める。
- (3) 質の高い学術誌に論文を発表する。
- (4) 国際学会、全国レベルの学会等で演者あるいは共同演者として発表する。
- (5) 地域に密着した研究に取り組む。
- (6) 学内外のプロジェクト研究、共同研究を推進する。
- (7) 研究成果等の公表など、社会への還元を行う。
- (8) 研究成果等による知的財産の創出と取得を行う。
- (9) 研究代表者として科学研究費補助金等の公募に積極的に応募し、獲得に努める。
- (10) 受託研究、共同研究等による外部資金の獲得、客員研究員の受入れを積極的に行

- い，博士課程学生を R A として活用し，研究の活性化を図る。
- (11) 環境・生命・バイオ・食料生産・資源循環に関する研究を推進する。
 - (12) その他独自の目標

国際交流・社会貢献に関する目標

- (1) 本学が行う国際的学术交流事業に協力，貢献する。
- (2) 留学生の受入れ・派遣，指導等を量的・質的に高める。
- (3) 学术交流協定を締結する大学との学生交流推進に協力する。
- (4) 研究グループ又は個人の英語版ホームページの設置，充実を進める。
- (5) 国際学会，国際交流シンポジウムの開催又は参加を行う。
- (6) 国際共同研究者の受入れを行う。
- (7) 日本学術振興会，JICA，JETRO 等の制度・組織を利用した国際交流を行う。
- (8) 国内外の共同研究を推進する。
- (9) 本学が行う市民公開講座・開放講座の開設，実施に協力する。
- (10) 地域の教育機関又は地方自治体等の要請による授業，講演などに協力する。
- (11) 国や地方自治体等の審議会や委員会等の活動に協力する。
- (12) 関連学協会等の活動に協力する。
- (13) 地域産業や地域社会への技術移転を進め，振興・支援に貢献する。
- (14) 市民の活動を，大学教員としての能力を生かして支援，協力する。
- (15) その他独自の目標

組織運営に関する目標

- (1) 全学の委員会，検討部会等の委員として積極的に活動し，大学の運営に貢献する。
- (2) 部局等の委員会，検討部会等の委員として積極的に活動し，部局等の運営に貢献する。
- (3) 大学や部局等が開催する行事（例えば，ジョイントセミナー，出前講義，オープンキャンパス等）に積極的に参加し，その運営に貢献する。
- (4) その他独自の目標

2) 各教員は，自己の職種，職務，能力，関心等を勘案して，下記の表に基づいて合計が 1.0 になるように，各評価領域の「重み」配分を定める。ただし，相当の理由があれば，理由を記して，評価領域の「重み」を自由に定めてもよい。

職名 \ 評価領域 区分	教 育	研 究	国際交流・ 社会貢献	組織運営	計
教授	0.1～0.5	0.1～0.5	0.1～0.5	0.1～0.5	1
助教授（講師）	0.1～0.5	0.1～0.5	0.1～0.5	0.1～0.5	1
助手	0.1～0.5	0.1～0.8	0.1～0.5	0～0.5	1

「重み」を用いた総合評価算出例

項目 \ 評価領域 区分	教 育	研 究	国際交 流・ 社会貢献	組織運営	備考
A：重み	0.3	0.5	0.1	0.1	重み合計 1
B：領域評価 点(5段階)	3	4	3	2	5段階平均の場合 3.0
A×B 重み加算点	0.9	2.0	0.3	0.2	重み加算点合計 (総合評価点) 3.4

2 - 1 活動状況の取りまとめによる自己点検：「活動実績報告書」

2 - 2 活動実績及び目標達成度による自己点検・評価：「自己点検・評価書」

3 各部局等の評価組織による審査と評価

4 評価結果の通知と集計・総合的分析

海浜台地生物環境研究センター個人評価実施基準

・教育

1. 目標

- (1) 主題科目など教養教育科目を担当する。
- (2) 学部教育及び大学院教育において講義・実習等を担当する。
- (3) 所属する部局の枠を超えて、横断的に教育に貢献する。
- (4) 授業の目的、内容を分かりやすく示したシラバスを作成し、学生による活用を高める。
- (5) シラバスに到達目標、評価方法・基準を明記し、厳格な成績評価を行う。
- (6) 学生による授業評価等を参考にして、授業内容、方法の改善を行う。
- (7) 問題発見・解決型授業、学生参加型授業、総合型授業、インターネット利用授業などの学習指導方法や創造的教材などを開発する。
- (8) 卒業研究、セミナーなど個別教育指導の量的・質的改善を行う。
- (9) オフィスアワー等による学生指導・支援を積極的に行う。
- (10) 大学院生の受入に努めるとともに、個別教育研究指導の実効を高める。
- (11) 教育研修(ファカルティ・デベロプメント)に積極的に参加し、自己の改善に資す。
- (12) TAを活用して学生の技術力・思考能力の向上を図る。
- (13) その他独自の目標

2. 評価基準

次の基準に達したものは、評価点3以上とする。

- (1) 3年間に1度以上担当した。
- (2) 分担も含め前期・後期それぞれ1科目以上担当した。
- (3) 農学部以外の学生を指導した。
- (4) 授業のシラバスを公表した。
- (5) 到達目標、評価方法・基準を明記し、それにより成績評価を行った。
- (6) 学生による授業評価を実施した。
- (7) 学習指導方法や教材開発に努力した。
- (8) 学生の個別教育指導を行った。
- (9) オフィスアワーを設けて学生の指導・支援を行った。
- (10) 大学院生を受入れた。
- (11) 1年に1度以上教育研修(FD)に参加した。
- (12) 1名以上のTAを活用した。
- (13) 目標の内容に応じて評価基準を設定する。

・研究

1. 目標

- (1) 分野等グループの研究を総括し、研究活動を高める。
- (2) 大学院生等の論文作成指導の量的、質的水準を高める。
- (3) 質の高い学術誌に論文を発表する。
- (4) 国際学会、全国レベルの学会等で演者あるいは共同演者として発表する。
- (5) 地域に密着した研究に取り組む。
- (6) 学内外のプロジェクト研究、共同研究を推進する。
- (7) 研究成果等の公表など、社会への還元を行う。
- (8) 研究成果等による知的財産の創出と取得を行う。
- (9) 研究代表者として科学研究費補助金等の公募に積極的に応募し、獲得に努める。
- (10) 受託研究、共同研究等による外部資金の獲得、客員研究員の受入れを積極的に行い、博士課程学生をRAとして活用し、研究の活性化を図る。
- (11) 環境・生命・バイオ・食料生産・資源循環に関する研究を推進する。
- (12) その他独自の目標

2. 評価基準

次の基準に達したものは、評価点3以上とする。

- (1) 年度始めに、分野等の研究計画を作成した。
- (2) 大学院生を含む学生に対し、研究指導を実施した。
- (3) 質の高い学術誌に論文1編以上を発表した。または、3年間を平均して、同学術誌に年1編以上の論文を発表した。
- (4) 国際学会、全国レベルの学会等で演者あるいは共同演者として、年1回以上発表した。
- (5) 地域に密着した研究に取り組んだ。
- (6) 学内外のプロジェクト研究、共同研究のメンバーとなった。
- (7) (3) 以外の論文を発表、または講演を行った。
- (8) 大学に所属する特許等を出願した。
- (9) 科学研究費を含む競争型研究資金に応募した。
- (10) 受託研究、共同研究等の資金を獲得した。または、博士課程の学生をリサーチアシスタントとして雇用した。
- (11) 環境・生命・バイオ・食料生産・資源循環に関する研究を実施した。
- (12) 目標の内容に応じて評価基準を設定する。

・国際交流・社会貢献

1. 目標

- (1) 本学が行う国際的学術交流事業に協力，貢献する。
- (2) 留学生の受入れ・派遣，指導等を量的・質的に高める。
- (3) 学術交流協定を締結する大学との学生交流推進に協力する。
- (4) 研究グループ又は個人の英語版ホームページの設置，充実を進める。
- (5) 国際学会，国際交流シンポジウムの開催又は参加を行う。
- (6) 国際共同研究者の受入れを行う。
- (7) 日本学術振興会，JICA，JETRO 等の制度・組織を利用した国際交流を行う。
- (8) 国内外の共同研究を推進する。
- (9) 本学が行う市民公開講座・開放講座の開設，実施に協力する。
- (10) 地域の教育機関又は地方自治体等の要請による授業，講演などに協力する。
- (11) 国や地方自治体等の審議会や委員会等の活動に協力する。
- (12) 関連学協会等の活動に協力する。
- (13) 地域産業や地域社会への技術移転を進め，振興・支援に貢献する。
- (14) 市民の活動を，大学教員としての能力を生かして支援，協力する。
- (15) その他独自の目標

2. 評価基準

次の基準に達したものは、評価点 3 以上とする。

- (1) 1年に1度以上は国際的学術交流事業に参加した。
- (2) 留学生を受入れた。
- (3) 学術交流協定を締結した大学と交流を行った。
- (4) 研究グループの英語版ホームページを開設した。
- (5) 国際学会や国際シンポジウムに1度以上参加した。
- (6) 過去3年間に国際共同研究者の受入れを行った。
- (7) 過去3年間にこれらの制度、組織を利用した国際交流を行った。
- (8) 一つ以上の共同研究を構築した。
- (9) 公開講座や開放講座の実施に関わった。
- (10) これらの授業・講演などを行った。
- (11) 審議会や委員会に参加した。
- (12) 学協会の委員として活動した。
- (13) 大学独自の技術移転に貢献した。
- (14) 市民の活動に対する支援を行った。
- (15) 目標の内容に応じて評価基準を設定する。

・組織運営

1.目標

- (1) 全学の委員会，検討部会等の委員として積極的に活動し，大学の運営に貢献する。
- (2) 部局等の委員会，検討部会等の委員として積極的に活動し，部局等の運営に貢献する。
- (3) 大学や部局等が開催する行事（例えば，ジョイントセミナー，出前講義，オープンキャンパス等）に積極的に参加し，その運営に貢献する。
- (4) その他独自の目標

2. 評価基準

次の基準に達したものは、評価点3以上とする。

- (1) 全学の委員会または検討部会、それに類する委員会の委員を務めた。
- (2) 部局等の委員会または検討部会、それに類する委員会の委員を務めた。
- (3) 大学や部局等が開催する行事（例えば、ジョイントセミナー、出前講義、オープンキャンパス等）に参加した。
- (4) 目標の内容に応じて評価基準を設定する。

平成16年度 個人目標申告書

平成 年 月 日

職種		氏名	印
I 教育		「重み」配分：	
項目	目標値	備	考
(1) 主題科目など教養教育科目を担当する。			
(2) 学部教育及び大学院教育において講義・実習等を担当する。			
(3) 所属する部局の枠を超えて、横断的に教育に貢献する。			
(4) 授業の目的、内容を分かりやすく示したシラバスを作成し、学生による活用を高める。			
(5) シラバスに到達目標、評価方法・基準を明記し、厳格な成績評価を行う。			
(6) 学生による授業評価等を参考にして、授業内容、方法の改善を行う。			
(7) 問題発見・解決型授業、学生参加型授業、総合型授業、インターネット利用授業などの学習指導方法や創造的教材などを開発する。			
(8) 卒業研究、セミナーなど個別教育指導の量的・質的改善を行う。			
(9) オフィスアワー等による学生指導・支援を積極的に行う。			
(10) 大学院生の受入れに努めるとともに、個別教育研究指導の実効を高める。			
(11) 教育研修（ファカルティ・デベロプメント）に積極的に参加し、自己の改善に資す。			
(12) TAを活用して学生の技術力・思考能力の向上を図る。			
(13) その他独自の目標			
II 研究		「重み」配分：	
項目	目標値	備	考
(1) 分野等グループの研究を総括し、研究活動を高める。			
(2) 大学院生等の論文作成指導の量的、質的水準を高める。			
(3) 質の高い学術誌に論文を発表する。			
(4) 国際学会、全国レベルの学会等で演者あるいは共同演者として発表する。			
(5) 地域に密着した研究に取り組む。			
(6) 学内外のプロジェクト研究、共同研究を推進する。			
(7) 研究成果等の公表など、社会への還元を行う。			
(8) 研究成果等による知的財産の創出と取得を行う。			
(9) 研究代表者として科学研究費補助金等の公募に積極的に応募し、獲得に努める。			

(10) 受託研究、共同研究等による外部資金の獲得、客員研究員の受入れを積極的に行い、博士課程学生をリサーチアシスタントとして活用し、研究の活性化を図る。		
(11) 環境・生命・バイオ・食料生産・資源循環に関する研究を推進する。		
(12) その他独自の目標		
III 国際交流・社会貢献		「重み」配分：
項 目	目標値	備 考
(1) 本学が行う国際的学術交流事業に協力、貢献する。		
(2) 留学生の受入れ・派遣、指導等を量的・質的に高める。		
(3) 学術交流協定を締結する大学との学生交流推進に協力する。		
(4) 研究グループ又は個人の英語版ホームページの設置、充実を進める。		
(5) 国際学会、国際交流シンポジウムの開催又は参加を行う。		
(6) 国際共同研究者の受入れを行う。		
(7) 日本学術振興会、JICA、JETRO等の制度・組織を利用した国際交流を行う。		
(8) 国内外の共同研究を推進する。		
(9) 本学が行う市民公開講座・開放講座の開設、実施に協力する。		
(10) 地域の教育機関又は地方自治体等の要請による授業、講演などに協力する。		
(11) 国や地方自治体等の審議会や委員会等の活動に協力する。		
(12) 関連学協会等の活動に協力する。		
(13) 地域産業や地域社会への技術移転を進め、振興・支援に貢献する。		
(14) 市民の活動を、大学教員としての能力を生かして支援、協力する。		
(15) その他独自の目標		
IV 組織運営		「重み」配分：
項 目	目標値	備 考
(1) 全学の委員会、検討部会等の委員として積極的に活動し、大学の運営に貢献する。		
(2) 部局等の委員会、検討部会等の委員として積極的に活動し、部局等の運営に貢献する。		
(3) 大学や部局等が開催する行事（例えば、ジョイントセミナー、出前講義、オープンキャンパス等）に積極的に参加し、その運営に貢献する。		
(4) その他独自の目標		

(注)

- 1 目標値欄には、「農学部個人評価基準」を参照して、1～5の整数で目標値を全ての項目に記入してください。
また、職務上等で目標とすることが困難な場合（-）を記入してください。その場合、必ず備考欄に理由を書いてください。
- 2 さらに、目標項目について特記すべき点があれば備考欄に書いてください。
- 3 各領域の「重み」は全領域の合計が1.0となるよう決めて下さい。

- ・この報告書は、平成16年度（H16.4.1～H17.3.31）について記入してください。
 ・セル内での改行は、ALTキーを押しながら、enterキーを打鍵してください。

氏 名

印

職 名

I. 教育の領域

1. 学部教育： 講義・演習・実験など

区 分	授業科目名	対象学科・学年	学生数	担当者数
主題科目 部会名：				
講義 演習 実験 卒業研究				
その他（イン ターンシッ プ、研修旅行 引率など）				

2. 大学院教育（修士課程・博士課程）

	授業科目名	対象専攻	受講人数	担当者数
講義 セミナー 演習 特別研究など				

3. 学部・大学院（修士課程・博士課程）研究指導など

卒業研究 指導学生数	大学院指導学生数		学位取得者指導数	
	修士課程	博士課程	修士	博士
名	名	名	名	名
・学生の修士論文題目，博士論文題目，及び学外における研究学習発表，受賞など				

4. 教育改善の取組

（シラバス、講義・演習・実験等における授業・指導方法の工夫，授業プリントや教材の作成、TAの活用など）

自由記載により具体的に説明し，自己アピールする。

--

5. 教育研修・教育活動（FD・SDへの参加，講演会，講習会など）

研修，講習会等の名称	開催日等	参加時間数
	平成 年 月	時間

6. 学生への生活指導等（オフィスアワー，クラス担任，クラブの顧問教員など）

指導の区分	指導内容における特記事項	期 間
オフィスアワー・チューター		平成16年度全期間
クラブの顧問		
その他		平成16年 月～ 年 月

7. 上記項目で表せない教育活動（必要があれば記入）

教育活動（名称等，具体的に記入してください。）	期 間
	平成16年度全期間
	平成16年 月～ 年 月

II 研究の領域

1. 本年度の研究テーマ

<ul style="list-style-type: none"> •

2. 著書，論文等の発表実績

発表実績については，過去3年間（H15.4.1～ H18.3.31の3年間）の累積数を御記入ください。

下段には指導した学生が著者に含まれる数を記入してください

著書（編）	論文総数（編） （うち，査読付編数）	和文原著（編） （うち，査読付編数）	英文原著（編） （うち，査読付編数）	その他（編）
編	編	編	編	編
編	編	編	編	編

3. 著書，論文等の発表実績（H17.4.1～H18.3.31の1年間のリスト）

著書，原著論文（和文，英文），その他等の区分に分けて業績総覧の様式に従って記入してください。必要に応じて枠を拡大してください。

--

4. 学会発表等

--

5. その他の研究活動実績等（特許，受賞，佐賀大学が世話役となって行った学会・研究会，研究に関する国内外の交流・研修，講演会講師など）（H17.4.1～H18.3.31の1年間のリスト）

・
・

6. 本年度申請した科学研究補助金等のテーマ

--

7. 外部資金の導入実績

研究費目	研究課題	研究代表者	金額(千円)	相手方

III. 国際交流・社会貢献の領域

1. 国際交流実績：具体的に実績（内容）を記入してください。

名 称	期 間
	平成16年度全期間
	平成16年 月～ 年 月

2. 留学生や国際共同研究者の受け入れ

国名	氏 名	研究テーマ

3. 公開講座・講演会などへの参加

タイトル	開催地	年月日	役割

4. 社会貢献実績

1) 学協会，審議会委員，非常勤講師など具体的に実績（内容）を記入してください。

名称（活動内容）	期 間
	平成16年度全期間
	平成16年 月～ 年 月

2) 地域貢献（名称、活動内容等）

名 称	活 動 内 容 等

IV. 組織運営の領域

1. 組織運営の活動実績（全学，学部，学科などの委員）

名 称	期 間
	平成16年度全期間
	平成16年 月～ 年 月

2. 学内行事への参加実績（ジョイントセミナー、オープンキャンパスなど）

名 称	期 間

V. 以上の領域で表せないその他の活動実績

名 称（実績内容）	期 間
	平成16年度全期間
	平成16年 月～ 年 月

平成16年度 自己点検・評価書及び個人評価結果

平成 年 月 日提出

氏
職

名：
種：

印

別紙様式3の別表を作成して、総合的に自己評価して「自己点検評価」欄に記入してください。

1. 教育 領域

自己点検評価	重み a	実績評価点 b	重み加算実績評点 a×b	目標達成率% c	重み加算達成点 a×c
	実績に対する自己評価，評価点の根拠			目標に対する取組，成果，達成率の根拠	
部局等長評価	重み A	実績評価点 B	重み加算実績評点 A×B	目標達成率% C	重み加算達成点 A×C
	実績評価コメント			目標達成評価コメント	

2. 研究 領域

自己点検評価	重み a	実績評価点 b	重み加算実績評点 a×b	目標達成率% c	重み加算達成評点 a×c
	実績に対する自己評価，評価点の根拠			目標に対する取組，成果，達成率の根拠	
部局等長評価	重み A	実績評価点 B	重み加算実績評点 A×B	目標達成率% C	重み加算達成評点 A×C
	実績評価コメント			目標達成評価コメント	

3. 国際交流・社会貢献 領域

	重み	実績評価点	重み加算実績評点	目標達成率%	重み加算達成評点
	a	b	a×b	c	a×c
自己点検評価	実績に対する自己評価, 評価点の根拠			目標に対する取組, 成果, 達成率の根拠	
部局等長評価	重み	実績評価点	重み加算実績評点	目標達成率%	重み加算達成評点
	A	B	A×B	C	A×C
部局等長評価	実績評価コメント			目標達成評価コメント	

4. 組織運営 領域

	重み	実績評価点	重み加算実績評点	目標達成率%	重み加算達成評点
	a	b	a×b	c	a×c
自己点検評価	実績に対する自己評価, 評価点の根拠			目標に対する取組, 成果, 達成率の根拠	
部局等長評価	重み	実績評価点	重み加算実績評点	目標達成率%	重み加算達成評点
	A	B	A×B	C	A×C
部局等長評価	実績評価コメント			目標達成評価コメント	

5) 上記の領域評価で表せない特記事項

必要があれば記入

領域評価 集計

評価領域	重み A	実績評価点 B	重み加算実績評 A×B	目標達成率 C	重み加算達成点 A×C
教 育					
研 究					
国際交流・社会貢献					
組織運営					
合 計					

総合評価 結果

総合評価	総合評価点	実績評価点範囲	該当	達成努力評価点範囲	該当
特に優れている	5	4.0～		90～	
優れている	4	3.5～3.9		80～89	
おおむね良好	3	3.0～3.4		60～79	
改善の余地がある	2	2.5～2.9		50～59	
改善を要する	1	～2.4		～49	

総合評価 コメント

必要があれば、部局等長が記入

--

海浜台地生物環境研究センター個人評価基準に基づく自己評価結果

平成 年 月 日提出

職種		氏名	印
教育		「重み」配分：	
項目	評価点	備考	
(1) 主題科目など教養教育科目を担当する。			
(2) 学部教育及び大学院教育において講義・実習等を担当する。			
(3) 所属する部局の枠を超えて、横断的に教育に貢献する。			
(4) 授業の目的、内容を分かりやすく示したシラバスを作成し、学生による活用を高める。			
(5) シラバスに到達目標、評価方法・基準を明記し、厳格な成績評価を行う。			
(6) 学生による授業評価等を参考にして、授業内容、方法の改善を行う。			
(7) 問題発見・解決型授業、学生参加型授業、総合型授業、インターネット利用授業などの学習指導方法や創造的教材などを開発する。			
(8) 卒業研究、セミナーなど個別教育指導の量的・質的改善を行う。			
(9) オフィスアワー等による学生指導・支援を積極的に行う。			
(10) 大学院生の受入れに努めるとともに、個別教育研究指導の実効を高める。			
(11) 教育研修（ファカルティ・デベロプメント）に積極的に参加し、自己の改善に資す。			
(12) TAを活用して学生の技術力・思考能力の向上を図る。			
(13) その他独自の目標			
研究		「重み」配分：	
項目	評価点	備考	
(1) 分野等グループの研究を総括し、研究活動を高める。			
(2) 大学院生等の論文作成指導の量的、質的水準を高める。			
(3) 質の高い学術誌に論文を発表する。			
(4) 国際学会、全国レベルの学会等で演者あるいは共同演者として発表する。			
(5) 地域に密着した研究に取り組む。			
(6) 学内外のプロジェクト研究、共同研究を推進する。			
(7) 研究成果等の公表など、社会への還元を行う。			
(8) 研究成果等による知的財産の創出と取得を行う。			

(9)	研究代表者として科学研究費補助金等の公募に積極的に応募し、獲得に努める。		
(10)	受託研究、共同研究等による外部資金の獲得、客員研究員の受入れを積極的に行い、博士課程学生をリサーチアシスタントとして活用し、研究の活性化を図る。		
(11)	環境・生命・バイオ・食料生産・資源循環に関する研究を推進する。		
(12)	その他独自の目標		
国際交流・社会貢献		「重み」配分：	
	項 目	評価点	備 考
(1)	本学が行う国際的学术交流事業に協力、貢献する。		
(2)	留学生の受入れ・派遣，指導等を量的・質的に高める。		
(3)	学术交流協定を締結する大学との学生交流推進に協力する。		
(4)	研究グループ又は個人の英語版ホームページの設置，充実を進める。		
(5)	国際学会，国際交流シンポジウムの開催又は参加を行う。		
(6)	国際共同研究者の受入れを行う。		
(7)	日本学術振興会，JICA，JETRO等の制度・組織を利用した国際交流を行う。		
(8)	国内外の共同研究を推進する。		
(9)	本学が行う市民公開講座・開放講座の開設，実施に協力する。		
(10)	地域の教育機関又は地方自治体等の要請による授業，講演などに協力する。		
(11)	国や地方自治体等の審議会や委員会等の活動に協力する。		
(12)	関連学協会等の活動に協力する。		
(13)	地域産業や地域社会への技術移転を進め，振興・支援に貢献する。		
(14)	市民の活動を、大学教員としての能力を生かして支援、協力する。		
(15)	その他独自の目標		
組織運営		「重み」配分：	
	項 目	評価点	備 考
(1)	全学の委員会，検討部会等の委員として積極的に活動し，大学の運営に貢献する。		
(2)	部局等の委員会，検討部会等の委員として積極的に活動し，部局等の運営に貢献する。		
(3)	大学や部局等が開催する行事（例えば、ジョイントセミナー、出前講義、オープンキャンパス等）に積極的に参加し，その運営に貢献する。		
(4)	その他独自の目標		

(注) 1 評価点欄には、各項目ごとに5段階(5～1)で評価して記入してください。